

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標

- 1) 豊かな知と健やかな心を育てる人間教育を行い、人々の幸福と社会の発展に貢献できる人材を育てる。
- 2) グローバル化の進む社会に適応できる英語力とコミュニケーション能力を身につけ、広く国際社会で活躍できる人材を育てる。
- 3) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

2 中期的目標

1 男女共学校としての指導体制の確立

- ① 男女共学完成年度を新たなスタートと位置づけ、改めて建学の精神を基本とする教育目標を浸透させる。
- ② 学校行事や式典において、より一層内容・参加者等工夫を凝らし、新羽衣スタンダードと呼べるものを構築する。
- ③ 今まで以上に、他者を思いやり円滑な人間関係の構築ができるよう支援し、人権を尊重する意識を育成する。
 - a) 人権に関する行事の事前事後指導や、「人権通信」を利用したHR活動を行う。
 - b) 生徒相談室や学校カウンセラーによるカウンセリングを活用し、相談体制を充実させる。
- ④ 将来の自立に向け、基本的な生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む
 - a) あいさつのできる生徒を育成、男女や年齢に関係なくコミュニケーションが始められるようにする。
 - b) 遅刻数を減らす

2 教育環境の充実

- 本年度に予定されている、高校棟の耐震とリニューアル工事を安全かつ予定通り遂行する。
- a) 工事期間中は、授業や行事での生徒の移動には安全を最優先に工事の施行計画を協議し、動線を確保する。
 - b) 特に工事エリアに近い教室が割り当てられる高校2年生については、できるだけ授業に妨げにならないような配慮を行う。
 - c) 新校舎、リニューアルしたすべての教室に、最新のプロジェクターとホワイトボードを設置、ICT化に対応できるようにする。
上記の設置が済んだ教室から、PCを常備する。

3 国際化の推進

- 積極的に国際交流を行い、異文化の多様性を理解できる国際感覚とそれに裏付けられた語学力を育成する。
- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を語り、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。
 - b) 本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を体験させる。
 - c) 英検を全学的に取り組み、合格者全体の増加と、上級への合格を目指させる。卒業後、海外大学進学者へのサポートを行う。

4 進路指導の充実

- 中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす。
- ① 4年制大学への進学率を65%以上にする。
 - ② 国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・薬学部への合格実績を出す。
 - ③ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。
 - a) 授業内容の充実と研究授業の継続的な実施
 - b) 授業アンケートの実施

5 安全教育の推進

一人ひとりの生徒が安全に生活をおくれるよう、健康指導や薬物乱用防止教室、交通安全教室を開催する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見 (平成28年2月実施)
<ul style="list-style-type: none"> ・校舎整備計画二年目となる今年度は、工事が予定通りかつ安全に行われることが至上命題であった。学校関係者から、「教育環境整備」の領域で一部ぎりぎりの項目があったものの、全て評価Aという結果で、正直安堵している。内部評価では、工事により、教室や職員室の移動を余儀なくされたことによる評価Bがあったが、これもまた当然の評価と受け止めざるを得ない。教職員全体の協力により、大掛かりな工事を乗り切れたことを共に喜びたい。 ・「学習指導」の領域では、今までにない評価となった。学校関係者と内部では、二つの項目の評価が入れ替わっている。この二つの指標だけでは、説明がつかないので、生徒による「授業アンケート」の結果を参考にとすると、授業の満足度に関しては、まずまず高いといえるが、教師が考える「わかりやすさ」は、教師が思ったほどではないというところであろう。これは、生徒の学力差の開きが大きい現状でどの学力層を念頭に置くか、内容によって上げたり下げたりをすれば当然出てくる結果のように思える。教授内容やレベル設定については、現状維持で良いとは思わないが、一斉授業を行っている以上、やむを得ない部分もある。 ・「進路指導」の領域では、学校関係者からの評価でBが二つもあるということは、学校として大きな問題である。進路指導部と学年・担任との連携がうまく機能しているか、また担任の指導内容を検証しなければならない。進路実現のための学力がつけられていないという評価と、わかりやすい授業という高い評価は矛盾するが、普段の授業といわゆる受験レベルとの乖離が大きいことに起因するのではないか。もう少し普段の授業でも、全員が理解できるかできないかは別として、歯ごたえのある内容を扱う必要性を感じる。 ・「生徒指導」では、学校関係者から非常に高い評価をいただいた。私学としては当然の事だとしても、素直に喜びたい。これからも評価いただけるよう、継続して取り組まなければならない。 ・「人権教育」の領域では、生徒相談室やカウンセリングの活用をやや低い評価であるが、基本的には担任がその任を果たしていれば、それらの活用の必要性が低いことにこだわらなくとも良いのではないか。 ・その他、本校が力を入れている国際化と資格取得に関しては、外部・内部とも非常に高い評価となり、大変喜ばしい。国際化はこれからの社会に必須であり、学生の間でできるだけ経験しておくことが大切で、多くの生徒が機会を得られるようにしていきたい。また、資格取得はそれ自体も大切であるが、こうした成功体験の積み重ねが、より高いハードルへチャレンジするモチベーションと自尊感情の醸成につながっていくので、今後も大切にしたい取り組みである。 	<p>昨年と今年で、領域及び項目が異なるので単純な比較はできないが、学校関係者評価(外部評価)は全体的に高い評価が出ている。校舎整備のための工事の影響が大きく問題視されていないのは、大変喜ばしい。また、共学も三年目となり、その点についての心配は無くなった様子である。とはいえ、問題が皆無ということではないので、以下項目別に意見を申し上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境整備については、ほぼ順調に推移したと判断して良い評価になっているが、せっかくのICT機器やICTルームが十分に活用されるようにしていただきたい。 ・学習指導に関しては、落ち着いた秩序ある授業という点に関して、外部と内部で肯定的な結果が31ポイント差。これほど評価が異なるのは、どういう理由からなのか。この点に関して、教研で取り上げるなどして、分析し対策を講じていただきたい。 ・進路指導に関しては、最後の2項目で外部項目の評価が一番低い。約20ポイントの差は、昨年よりも広がっている。学校として、卒業後の進路に関わるこの部分は、最優先事項。猛省を促したい。 ・生徒指導は、外部評価で昨年より大幅に改善された。温かくも厳しい指導がこの評価に反映されたと思う。指導する側は大変なご苦労だと思うが、この評価を励みに引き続き指導にあたられたい。 ・人権教育については、例年通りの結果といえようか。生徒相談室やカウンセリングの稼働率が高いから良いとは一概にはいえない。学校全体が落ち着いて、居心地が良ければ、相談数も増えてこない。 ・国際化と資格取得に関しては、内部・外部とも大変高い評価で、趣旨の理解と成果がうまく結びついている。学校におけるすべての教育活動がうまくリンクし、良い循環となるよう、学校側は常に発信していかなないと、効果は単発に終わってしまう。ここ数年、教員の入れ替わりが多いようであるが、新規に採用された人にも説明と理解をさせていかなければならない。 <p>共学化や工事は一区切り。今後の取り組みが羽衣の将来を左右するといっても過言ではない。尚一層、問題点には真摯に取り組まれることを期待する。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 共学校としての指導体制の確立	行事式典のプログラムを見直し、生徒の満足度をあげる一方、基本的な生活習慣の定着をしっかりと行う。	① 生徒全員に、一流の芸術作品を鑑賞させる。 ② 体育祭・学園祭の内容の工夫。 ③ 高校修学旅行の方面に台湾を追加。 ④ 「人権通信」の定期的発行、カウンセリングの充実。 ⑤ 挨拶励行については、生徒自治会から「朝の挨拶運動」の呼びかけを学期に一度実施。教員からは、生徒指導部を中心に、「遅刻0週間」の設定と常習者には、生徒指導部長・教頭からの説諭。	① 年内に1回は実施。 ② 体育祭や学園祭においては、プログラムを工夫し、生徒や保護者の満足度をあげる。 ③ 最低催行人数をクリアし、実施できるか。 ④ 「人権通信」は各学期3回以上の発行。カウンセリングは、受診できる日の確保。 ⑤ 遅刻者数を平成27年度終了時には、前年度比10%の減少を図る。	① 9月生徒全員ミュージカル「ライオンキング」を鑑賞した。【◎】 ② 伝統の羽衣踊りを共学になっても存続、評価の高いものになった。【◎】 ③ 約90名の希望者で実施。高雄での姉妹校との交流も有意義だった。【◎】 ④ 「人権通信」は目標通り発行、カウンセリングも毎回受診者があり、心のケアにつながっている。【◎】 ⑤ 遅刻者数はほぼ昨年並み。欠席数もやや増加傾向。効果が十分に上がっているとは言い難い【×】次年度も粘り強く取り組む。
2 教育環境の充実	高校棟の耐震リニューアル工事の完了	① 毎週1回、設計管理・施工業者と会議を持ち、工事工程の説明と学校側の要望とを摺合せを行う。危険個所の説明を受け、立ち入り禁止区域を明確にすること、またより危険な個所にはガードマンを配備して万全を期す。 ② 高校2年生の教室配置にできるだけ考慮し、大学の教室にも移動するなど、学習環境を整える。 ③ 全教室に、ホワイトボードとプロジェクターを設置。また、パソコンも常備する。	① 本校教職員・工事関係者は勿論、工事箇所でも事故0となるか。 ② 年間を通して授業や試験が、滞りなく実施できるか。 ③ 全教室に同じ環境が完備できるかどうか。	① 当たり前ではあるが、事故件数は0。ただし、安全性を確保するために、何度も動線を変更するなどの影響が出た。【○】 ② 高校2年生の教室・職員室は学期ごとの移動となり、また、騒音や臭気によって落ち着いた教育環境が年間を通して保たれていたとは言い難い。学年には忍従を強いた結果となった。【×】 ③ 全教室に予定の設備を設置できた。色々な場面での活用が望まれる。【◎】
3 国際化の推進	生徒が、海外の生徒と触れ合う機会を増やし、英検合格へのモチベーションに繋げる。	① 中学・高校共 海外交流を受け入れる。 ② シドニーにあるメリデン高校、台湾高雄にある高級職業学校と、短期・長期の交換留学生を出す。羽衣オリジナルプログラムの短期語学研修(3月末にカナダバンクーバー)を実施する。 ③ 年に2回、学校全体で英検を受験。海外留学の目安となる英検2級合格者が一定数出るよう指導する。 ④ 海外大学への進学希望者への情報提供とアドバイス・合格指導を実施。	① 中学・高校共 年間3回以上の交流を実施。 ② 交換留学生が2名以上。カナダ語学研修に15名以上の参加。 ③ 中学校で英検準2級合格2名以上、高校で英検2級を10名以上の合格者を出す。 ④ 海外大学への進学者3名以上。	① 中学の交流は各学年3回以上実施できなかったが、高校では実施。【○】 ② 交換留学生は1名、カナダ語学研修には20名が参加。【○】 ③ 中学校での英検準2級合格者は5名、高校2級以上合格は11名、準1級も1名合格で目標を大幅に超えた。【◎】 ④ 台湾の大学への進学者2名、韓国の大学への進学者が1名、計3名となった。【◎】
4 進路指導の充実	難関国公立大合格者輩出と中堅から難関私大の合格者倍増	① 希望する4年制大学進学に向け、進路指導部、コース、学年が一体となり、情報提供・個別進路指導を実施。 ② 生徒の志望大学別課外の実施。 ③ a) 授業内容については、各教科で協議と研究を重ね、常に授業力の向上に努める。 b) 授業アンケートを実施して、自己評価と生徒からの評価を照らし合わせ、ひとりよがりの授業にならないようにする。	① 4年制大への進学率 65%以上。 ② 難関国公立大学 5名以上、関関同立 30名、産近甲龍 30名以上の合格実績。 ③ 羽衣国際大進学 30名以上。 ④ 各教科で、毎学期1回以上の研究授業を行う。 ⑤ 授業アンケートの実施とそれに基づく校長面接を全教員対象に行う。	① 4年制大への進学率 68%【◎】 ② 大阪市立大 2名、和歌山大 1名、大阪教育大 1名、山口大 1名の計 5名。関関同立 23名・産近甲龍 31名合格。【△】 ③ 羽衣国際大への進学者26名【×】 ④ 毎学期実施できていない教科もあった。【△】 ⑤ 全教員対象に面接を実施、各教員の問題点や悩みを共有できた。中堅教員には、一層の奮起を促すことができた。【◎】
5 安全教育の推進	各種安全教室の実施	① 交通安全教室の実施。高石警察交通課による講演会実施。 ② 薬物乱用防止教室の実施。大阪府警からの派遣講師による講演会実施等 ③ 防災教育の実施。	① 中学・高校、それぞれ年間最低1回は実施。自転車通学者には、別途講習会を実施。 ② 中学・高校、それぞれ年間最低1回は実施。保健体育の授業でも取り扱う。 ③ 火災対象の避難訓練を年2回実施。大阪880万人訓練の参加。高石市防災訓練に参加。	① 全体には、中学・高校とも1回は実施できたが、自転車通学者対象に別途の講習会は実施できず。高石警察交通課と相談し、次年度は実施したい。【△】 ② 計画通りに実施できた。【◎】 ③ 避難訓練は1回しか実施できず。しかし、校内が工事中ということもあって、より現実的な計画で実施できた。大阪府・高石市の訓練にも参加。折にふれ、防災、安全への注意喚起はできた。【○】